

## 2025 年度 JLGC Seminar 実施報告

### ○日 時

- ・ 2026 年 2 月 5 日（木） 13:30～17:30

### ○テ ー マ

- ・ 都市とレジリエンスの実践：神戸に学ぶ (Cities and Resilience in Action: Lessons from Kobe)

### ○開催場所

- ・ Japan House London (101-111 Kensington High Street, London, W8 5SA)

### ○登壇者

- ・ Heather Jameson (MC)  
Editor, the MJ
- ・ 松岡 恵子 氏 (スピーカー・パネリスト)  
神戸市危機管理局防災企画課係長
- ・ 有馬 栄一 氏 (スピーカー・パネリスト)  
神戸市水道局経営企画課課長
- ・ Lyndsey Mapplebeck 氏 (スピーカー・パネリスト)  
Resilience Manager, Newcastle City Council
- ・ Matt Hogan (パネリスト)  
Head of Governance, Assurance & Partnerships, London Resilience Unit, Greater London Authority

### ○参加者

- ・ 参加者数 68 名

### ○概 要

本セミナーは、英国等の地方自治関係者及び日系機関関係者を対象とし、英国等での日本に関する理解を深めていただくとともに、日英等の交流・協力関係の促進に資することを目的に毎年開催している。

地方自治体が共通して直面する課題を反映したテーマを設定しており、2025 年度は「都市とレジリエンスの実践：神戸に学ぶ」をテーマに、防災やレジリエンスを取り扱った。

歴史的に、英国は日本と比べると自然災害が少ない国と言われているものの、近年では洪水や異常気象による被害が発生している。一方、日本は長年にわたり地震、台風、津波といった自然災害に直面し、幾多の経験を通じて、命を守り、防災・減災への備えを強化するための幅広い対策を発展させてきた。特に 1995 年に発生した阪神淡路大震災は、レジリエンスや防災の在り方について見直す大きな転換点となっている。

今回のセミナーでは、このような日英の状況を踏まえ、神戸市、ニューキャッスル市、グレーター・ロンドン・オーソリティからレジリエンスの専門家を講師に招き、プレゼンテーションやパネルディスカッション等を行った。

神戸市危機管理局の松岡恵子氏からは、神戸市の阪神淡路大震災や過去の水害の被害の概況や、その後神戸市がどのような災害対策を講じ、危機管理体制や市民への情報発信能力を強化し、地域防災力を向上させていったかご説明いただいた。

続いて神戸市水道局の有馬栄一氏からは、大容量送水管の整備を通じたインフラの強靱化や発災直後の行政の支援が届きにくいタイミングでも給水を可能にする地域との連携の取組、地域住民のレジリエンス能力を高める防災訓練・教育、被災した際の受援の仕組みなど、水道分野におけるレジリエンス向上のための具体的な事例をご紹介いただいた。

Newcastle City Council の Lyndsey Mapplebeck 氏からは、ご自身の福島県訪問の経験を踏まえつつ、日英両国のレジリエンスに関する取り組みを比較し、日本から英国の自治体が学び得る点についてご発表いただいた。

これらの発表を受けて行われたパネルディスカッションでは、防災教育を学校のカリキュラムに組み込む意義や、平時から長期的な視点で災害に備えることの重要性などについて活発な議論が交わされ、参加者からは英国の自治体にとって学ぶ点の多いセミナーであったとの声が多く寄せられた。



セミナーの様子

以上